

宮城県における食料産業クラスターの事業推進体制

～宮城県食料産業クラスター全体協議会の取組み～

1 宮城県食料産業クラスター全体協議会の概要

宮城県食料産業クラスター全体協議会は、全国の食料産業クラスター協議会の中では比較的遅れて設立された。しかし、他県の食料産業クラスター協議会の取組みについて視察を行ったり、東北6県等に対しアンケート調査を実施したりするなど、積極的な取組みが見られる。

「宮城県食料産業クラスター全体協議会」の取組みについて、2008年7月11日に、事務局を宮城県食品工業協議会と共同で運営している宮城県農林水産部食産業振興課 穴戸 夕紀子氏にお話を伺った。

1.1. 宮城県食料産業クラスター全体協議会の設立

食料産業と官学との連携を密にして、有機的な生産体制を強化し、実効的な市場開拓や商品開発に取り組む生産基盤を構築することを目的として、「宮城県食料産業クラスター全体協議会」が2006年6月23日に設立された。2008年7月11日時点で、会員数は52（うち団体7、個別企業等41、行政等関係機関4）となっている。

1.2. 宮城県食料産業クラスター事業の推進体制

宮城県食料産業クラスター事業の推進体制は、図1に示す通りである。宮城県食料産業クラスター全体協議会

は、国からの働きかけをきっかけとして設立され、宮城県農林水産部で生産から加工・流通に関わる諸団体に声かけを行った。事務局は宮城県食品工業協議会内に設置されている。

食料産業クラスター事業における商品開発については、企画部会でどういう玉出しをしていくかが話し合わせ、また専門分科会において商品開発が取り組まれている。

1.3. 「食材王国みやぎ」

宮城県では、「食」にかかわる産業の充実を目指した「食材王国みやぎ」の取組みを行っている。その中で、豊かな県産農林水産物を活用した、より高付加価値の高い「売れる商品づくり」から販路拡大までを総合的に支援することにより地域経済の活性化を図る目的で食品製造業振興プロジェクトに取り組んでいる。食料産業クラスター支援事業は、食品製造業振興プロジェクトのひとつの柱であるとともに、「食材王国みやぎ」において、重点的な施策の一つである。

食料産業クラスター支援事業では、特にビジネスマッチング支援や新たな加工開発支援（地域の特性を活かした商品開発）そして産官学連携による新商品開発支援としての役割を担っている。

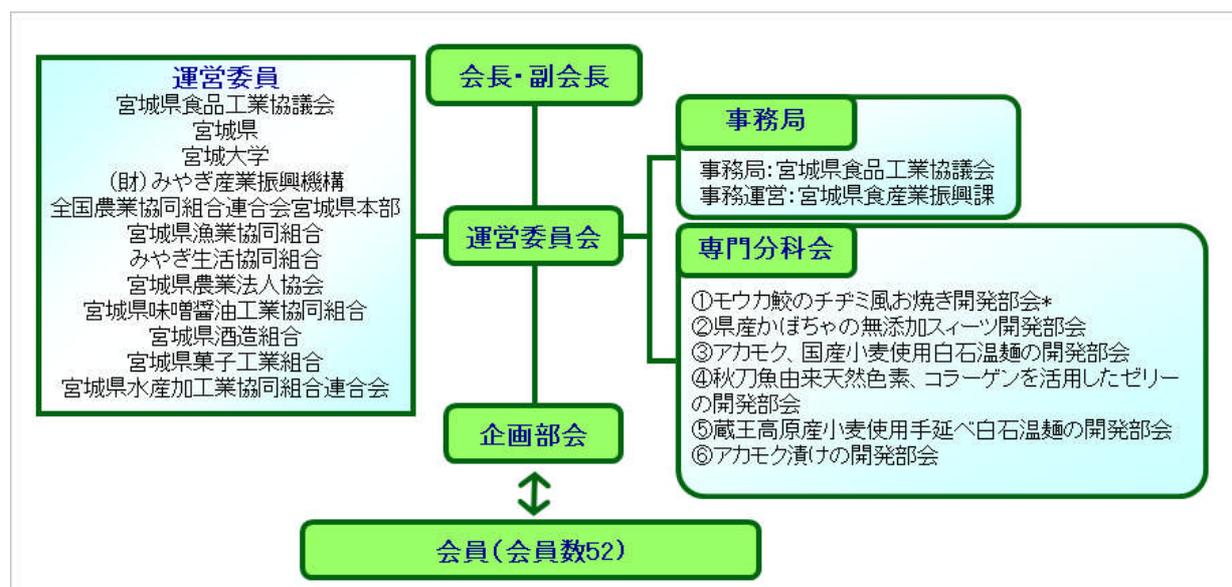


図1 宮城県食料産業クラスター事業の推進体制（平成19年度）

資料：宮城県農林水産部提供資料を参考に筆者作成

註1：「*モウカ鮫のチヂミ風お焼き」については試作のみで、その後同部会で「鮫の角煮」が開発された。

註2：企画部会は、フードシステムの川上から川下に渡る産官学の17団体が構成メンバーとなっている。

2 宮城県食料産業クラスター全体協議会の取組み状況

平成 18 年度はシンポジウムの開催のみであったが、平成 19 年度は 6 つの商品開発に取り組んだ他、マッチング・ニーズ調査、産学官連携のためのセミナーや交流会の開催、シンポジウム、先進地視察、リーフレット配布によるクラスター広報活動等も行っている。

2.1. 平成 19 年度の商品開発

平成 19 年度は「モウカ鯨の角煮」「県産かぼちゃの無添加スイーツ」「アカモク・国産小麦使用白石温麺・うどん・素麺」「秋刀魚由来青色色素、コラーゲンを活用したゼリー」「蔵王高原産小麦使用手延べ白石温麺」「アカモク漬け」の 6 つの商品開発に取り組んだ（表 1）。

表 1 平成 19 年度の商品開発

開発商品	開発商品概要
モウカ鯨の角煮	サメ肉特有の臭いを軽減し、食感がソフトな常温食品を開発する。
県産かぼちゃの無添加スイーツ（シフォンケーキ、パンキンパイ）	県産かぼちゃの素材の良さを活かし、自然派・こだわり志向の消費者を対象とした、添加物を使用しない商品として仕上げる製法を検討する。
アカモク・国産小麦使用白石温麺・うどん・素麺	国産小麦 100%（うち 1/3 を宮城県産ゆきちから使用）の麺にアカモクを 2% 使用し新食感でかつ健康志向の温麺を開発する。
秋刀魚由来青色色素、コラーゲンを活用したゼリー	サンマ鱗から抽出した青色コラーゲンを活用したゼリー等の菓子類を開発し、気仙沼・三陸地域特産品として販売する。
蔵王高原産小麦使用手延べ白石温麺	地域の転作組合と連携し地域で生産された小麦粉を 100% 使用した手延べ製法による白石温麺を開発する。
アカモク漬け	アカモクと地域産野菜を組み合わせた商品の開発。アカモクの抗菌作用を活かした品質保持を検討する。

資料：宮城県農林水産部

2.2. 平成 19 年度の宮城県食料産業クラスター全体協議会の主な事業内容

宮城県食料産業クラスター全体協議会の主な事業は、企画運営会議等、商品開発専門部会、産学官交流会・セミナー等である（表 2）。

まず、企画運営会議等は、宮城県食料産業クラスター全体協議会事務局が中心となり取り組んでいる¹。主な取組みとしては、当該年度の事業開始時に通常総会を開き、

¹平成 19 年度は、運営委員会に企画部会も出席した。平成 20 年度から、運営委員会による運営委員会と別に企画部会（全員ではない）が集まって企画部会を開催した。

秋に商品開発の中間報告会、そして年度末に商品開発総合評価を行う。また、次年度の取組みについて新商品開



平成 19 年度の開発商品

（写真：宮城県食料産業クラスター全体協議会提供）



平成 19 年度食料産業クラスターシンポジウム

（写真：宮城県食料産業クラスター全体協議会提供）

発計画審査会も開かれる。

次に、商品開発専門部会は、それぞれの商品開発におけるコア企業を中心となって開催され、コーディネータもしくは協議会事務局が中に入る²。主な取組みとしては、まず事業実施説明会が開催され、新商品開発中間報告会、総合検討会が開催される。

そして、交流会・セミナー等については、毎年開催されるものは、商品開発のためのセミナーや食料産業クラスターシンポジウムがある。企業間や産学官の交流促進のために、セミナー、シンポジウム開催後に懇親交流会を開催している。また、宮城県食品工業協議会等とも連携して先進事例調査やセミナーの開催もしている。

さらに、食関連事業者ニーズ・シーズ調査に関しては、平成 19 年度はアンケート調査が実施され、平成 20 年度はコーディネータが食関連の企業・団体をまわり、ヒアリング調査を行っている。

²商品開発専門部会は専門分科会によって実施されている。

なお、企画運営会議等、商品開発専門部会では、他にも様々な取組みを行っている。

表2 宮城県食料産業クラスター全体協議会の主な事業
(平成19年度)

事業の柱	主な取組み
企画運営会議等	通常総会
	商品開発の中間報告会
	新商品開発計画審査会
	商品開発総合評価
商品開発専門部会	事業実施説明会
	新商品開発中間報告会
	総合検討会
産学官交流会・セミナー等	商品開発セミナー・産学官交流会
	食料産業クラスター先進地事例研修
	食品リサイクルセミナー
	食料産業クラスターシンポジウム・産学官交流会
	食関連事業者ニーズ・シーズ調査

資料：宮城県農林水産部

註：企画運営会議等、商品開発専門部会では、表中のもの以外の取組みも行っている。

3 今後の展望

宮城県食料産業クラスター全体協議会の現在の会員数は52とまだまだ少ないが、機会あるごとに関係団体等に声かけしている。そして、今後は核となるテーマのもとに複数の団体が集まって、活動展開できればと考えている。

しかし、食料産業クラスター事業を推進するにあたって、何の下地もないところから新商品を生み出すのは困難であると認識している。従って、そのための芽作りが重要であろうと考えている。以上を踏まえ、宮城県食料産業クラスター全体協議会では、各地の先進事例を参考にし、研究グループ等による脈々と続く商品開発の取組みを目指したいとしている。

宮城県では「食材王国みやぎ」の旗印のもと、食関連産業振興に関わる施策への取組みが積極的になされている。今後、県全体の食関連産業振興のため、食料産業クラスター事業をどのように有機的に結び付けていくかも課題である。

【お問い合わせ】

宮城県農林水産部 食産業振興課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町 3-8-1

TEL 022-211-2812 FAX 022-211-2819

URL <http://www.pref.miyagi.jp/syokushin/cluster/index.htm>

(文：山形大学農学部 博士研究員 大西 千絵*)

*社団法人食品需給研究センター 非常勤研究員